



小林喜美治議員

◇平成21年度施政方針と予算案について

【質問】 施政方針では「積極的な市政展開」50年も100年も輝き続けるいいやま、さらには「新幹線開業が目前に見えてきた中、この5年間をどう進めていくか、21年度は大きな分岐点の年といえる」と指摘しているが、21年度予算で示された重点施策の特徴点については。

【部長】 事業の選択については、後期基本計画における4つの柱、①産業の活性化・②移住定住・通勤通学対策、③ゼロ歳からの安心安全・豊かな教育、④共存共栄・やさしいまちづくりに基づく各施策を重点施策とし、5年後に迫った新幹線開業に対応する事業、22年度開校の中学校統合に関する事業に特に重点配分している。

【部長】 事業の選択については、後期基本計画における4つの柱、①産業の活性化・②移住定住・通勤通学対策、③ゼロ歳からの安心安全・豊かな教育、④共存共栄・やさしいまちづくりに基づく各施策を重点施策とし、5年後に迫った新幹線開業に対応する事業、22年度開校の中学校統合に関する事業に特に重点配分している。

◇予算要求に対する査定率について

【質問】 予算編成に当たって「経常経費の削減をはかり、事業の選択と重点配分することによって大型事業に対応する予算編成」であり、総枠配分方式で予算編成したとのことだが、各部・各課からの予算要求に対する査定率はどのようになっているのか。また、必要な予算を削減していないか。

【部長】 各部・各課からの査定率は総額で97・8%であるが、3月補正予算で国の2次補正により新年度分前倒し計上しているの、これを考慮すると総額は99・1%となる。必要な予算については、予算計上し対応している。

◇福祉医療制度について

【質問】 県は、乳幼児・障害者などの福祉医療の自己負担金（手数料）を300円から500円に引き上げようとしているが、これによる市内の受給者の負担増と飯山市の対応について。

【部長】 影響額は県の試算によると600万円余となる。19市の動向を伺いつつ



高橋正治議員

◇新しい減反政策における方針は

【質問】 日本の食料自給率は40%となっている。昨年の穀物高騰は世界的な食料危機を示している。お金を出せば食料は何処でも買える時代ではないのではないか。1971年から減反が始まり38年間続けられ、現在では40%の減反となっている。昨年は減反目標未達成で青刈、加工米が拡大

も、周知期間の6ヶ月間啓蒙を行い、制度維持のため、県の変更に沿って事務を進めたい。

れた。今年についても各農家に目標が示された。政府の構造改革路線に基づく方針により進めていくのか。

【市長】 米しか作れない所の減反拡大は農地を荒廃させ、当市の農政を考えた時に、これ以上の減反は認めない方針で関係機関に働きかけていく。今、県段階で他地域との調整が行われているので拡大面積はなんとかあると思う。減反問題については、引続き皆さんの声を大切にしたい。最近の新聞で富山県の大規模農業法人が倒産した記事を見たが、今日の40%以上もの減反で経営できない事を示すものである。政府構造改革路線は、当市の農業にふさわしいものではない。最近農政運動が停滞している。この運動が大切であり、皆さんと共に力を合せて行っていく。

【部長】 米しか作れない地域での転作は、米で目標達成することが良いと思う。加工米で対応し目標は達成させたい。

◇介護第4期が4月からスタートするが

【質問】 3年毎の見直しで、4月から第4期が始まり、介護保険料が引上げられる。それに見合うサービスはどうか。保険料も8段階となっている。介護従事者の実態はどうか。

【市長】 現段階で見ると財政面から僅かずつ悪くなっている思いが強い。改定される度に良い方向であるなら賛成であるが、そうならないのが残念である。



西部カントリーエレベーター（外様）



坂原シモ議員

◇男女共同参画について

【質問】 男女共同参画社会づくり条例が制定され、推進課題も第2ステージに入っている。現在8名のコミュニティケータールが公民館、区長会の協力を得て、地域課題解決に向けた活動を進めているが、その後の活動につなげるには、地域での受け皿としてサポーターを設置するなり、方法を考えるべきと思う。

【市長】 男女共同参画の推進には、市民の意識づくりが大切であり、そのため、地域に根ざした推進活動を行うことが効果的である。より効果的な体制づくりについて人材・組織など研究していきたい。

【質問】 市の各種審議会等公職への女性の登用状況及び市役所女子職員の係長以上への登用状況は。又、男女共に育児・看護・介護

休暇の取得はどうか。

◇食育推進基本計画について

【質問】 産地偽装、汚染米の食用への転用など食の安全が問われている。地産地消の推進、安心安全な食料確保、農業振興を含め、教育・保健福祉と幅広い視点でまとめあげた食育基本計画が必要と思う。

【市長】 地域の優れた食材から生み出された郷土料理が基礎になる。健康増進のみならず、食をキーワードにして農業振興、観光交流、地域振興、教育、人材育成につながるものであり、諸団体、各部署との連携を深めて、全市的な構想になるよう考えていきたい。

◇集落合併支援事業について

【質問】 集落合併支援事業への予算化がされたが、こ



竹井政志議員



食ごよみ

◇企業誘致と市内雇用状況について

【質問】 昨年12月以降、ますます厳しくなっている経済情勢の中で、誘致しようとしている企業に変化はないのか、また、飯山市内の企業に勤める人たちと懇談する機会があり、「正規社員なので解雇になつてい

の事業を検討してみようという集落には、専門的な知識と経験のある職員を配置してはどうか。

【市長】 活性化センター、また集落出身の職員を当てたい。

ないが週休が増え収入が半減した」とか「いつ解雇されるか不安」などと切実な声を聞くことができた。市として、このような実態や雇用状況を把握しているのか。

【市長】 戸狩工業団地への誘致企業の件ですが、最初の規模より少し小さく出発するかもしれないが「必ず工場を建てます」という回答をいただいている。

【部長】 昨年末から非正規雇用者数については5分の1まで減っている。正規社員も一時帰休が製造業でかなり進んでいる状況。先が見えない状況が続いている。

◇米飯給食の推進について

【質問】 地域食材は、安心して多くの保護者が希望するところだが、現行米飯給食週3回を4回にし、郷土食を取り入れた場合、保護者の給食費負担増にならないか。

【教育長】 米飯、郷土食を入れると長時間かかるが、食料等が上がり、保護者給食費が上がり、保護者

◇子ども議会開催事業について

【質問】 子どもたちが学習や日々の生活を通して飯山の将来像、未来に向けた提言、課題を飯山市に提案し共に考えあう、このことによつて、市政への参加と理解を深め、やがて飯山の街の「主人公」になっていくのではないかと思う。21年度実施にあたり、ねらいと内容はどのようなものか。

【教育長】 将来のふるさとを担う子どもたちの声を施策に活かすことは有益。また、子どもたちにとつても自分たちの街のことを考えることは有意義。まだ、具体的に要項は決まっていないが、過去の開催事業の結果をふまえ、進めていきたい。



議場